

AI インクルージョン推進会議

第8回

議事概要

1. 日時

令和元年8月20日（火）14:00～16:00

2. 場所

中央合同庁舎第2号館 8階 総務省第1特別会議室

3. 出席者

(1) 構成員

北野座長、秋山構成員、安宅構成員、ビール構成員、スィンハ構成員、末松構成員、新居構成員、増島構成員

(2) 総務省

秋本大臣官房総括審議官、吉田情報流通行政局情報流通振興課長、石谷情報流通行政局情報流通振興課企画官、富樫情報流通行政局情報流通振興課課長補佐、井上情報通信政策研究所長、本間情報通信政策研究所情報通信政策総合研究官、山田情報通信政策研究所調査研究部長、飯島情報通信政策研究所調査研究部主任研究官

(3) オブザーバー

総務省情報流通行政局情報通信政策課、総務省情報流通行政局地域通信振興課、総務省自治行政局地域力創造グループ地域政策課

4. 議事概要

(1) 有識者からの発表

- 「地域・地方の課題解決」における人流データ（ロケーションビッグデータ）活用事例（株式会社ナイトレイ 石川代表取締役）

（概要）人流を含むロケーションのデータを自社・他社との連携を通じて集め、観光領域に特化した地域活性化を支援する形で、さまざまな業種の企業に活用いただいている。

具体的には、SNSのパブリックな投稿データをロケーション情報としてとらえる解析技術を用いて、どこで何が起きているのかを独自にリアルタイムに解析しwebサービスやレポート等でお客様へ提供している。ただし、SNS解析データだけで全てが分かるわけではないので、必要に応じて業務提携してるパートナーが提供する多様なデータも活用している。データ活用により外国人観光客の国別の関心の相違分析や観光資源の新たな発掘が可能となった。

【スィンハ構成員】

- ・ 他社とデータを共有する場合、収入はどう分けているのか。特に課題が見えていない場合は、算出しにくいと思うが。

【ナイトレイ】

- ・ ウェブサービスの場合は事前に価格やレベニューシェア割合を決めている。複数データを使用するレポート等価値が分かりにくいケースでもデータの価格を期間とエリアにより決めており、人件費などのコストと分けて算出している。

【北野座長】

- ・ 山口の事例があったが、KPIはどう設定しているのか。

【ナイトレイ】

- ・ 顧客が決めることなので当社では決めていない。ただし、データを基にルートを決定しているので、予約数などのKPI設定は容易である。

【北野座長】

- ・ 観光資源が多くデータを活用している自治体でも、投資を呼び込むまでに至っていない例が多い。データとプロデュース力の両輪が重要だと感じている。どちらかだけでは厳しい。

【新居構成員】

- ・ 自治体と連携する上での課題はあるか。

【ナイトレイ】

- ・ データを活用する取組に対して国・自治体が後押しし、評価する仕組みが

あると、ビジネス展開が容易になる。

(2) 構成員からの発表

○ 「風の谷」という希望（安宅構成員）

（概要）地球全体や経済・社会の課題は山積しているが、次の世代に残すべき未来を創造したいとの思いからプロジェクトを企画している。

テクノロジーを使ってインフラコストを下げることや土地の求心力を上げることが検討している。

【末松構成員】

・本プロジェクトにおける官民連携の全体像を教えてほしい。

【安宅構成員】

・現在はクローズドで進めている。法人設立準備を進めているので、近いうちに公開する予定である。

【スィンハ構成員】

・そもそも自分たちが持つべき以上の物を持っているのが問題だと考えるが、解決策はあるのか。

【安宅構成員】

・500から1,000あると言われる、捨てられる土地をゼロからよみがえらせることが解決策だと考えている。同様の課題がある地域は日本以外にも多くあるので、横展開も可能である。

【秋山構成員】

・安宅構成員のような取り組みが増えた場合、政府は何をすべきか。

【安宅構成員】

・従来と異なる流れを作ることに投資してほしい。5から10個ほど取り組むとどれかは当たるかもしれない。例えば舗装された道路を歩いている人は認知症になりやすいという研究もあり、予防のためにあえて砂利道を利用するなど、低廉なものも含めてテクノロジーができることはもっとある。

・単一ではなく複数領域の専門性を若者にも中高年にも持たせるべき。

・法律や規則をもっとハックしやすくしてほしい。現状、土地は複数の法律によって規制されており、法律を知り尽くした人か、人脈が豊かな人でないとハックできない状態になっている。

【増島構成員】

・法律という点では、分権が進んだ先に、地方の権限だけでどこまでできるのかが課題だ。また、ハッキングという手法では大きく広がらないが、他

に方法はないだろうか。

【安宅構成員】

- ・これから壁にぶつかってみないと分からないところもあるが、現実解としてはハックしかないと思っている。ハックした結果を本検討会のような場にフィードバックすることで、多様な挑戦を進めたい。

【北野座長構成員】

- ・オフグリッドを進めるとその過程ではメンテナンスコストが上がるのが分かっている。どう切り抜けるのか。

【安宅構成員】

- ・例えば高齢者こそ都会に行っていただくと、ヘルスケアのコストを下げることができるのではないか。逆に若者には地方へ移住してもらおうべく、税制優遇を行うのが良い。

(3) 事務局説明

- 事務局より、「地域・地方」をケーススタディとするプロジェクト（案）について資料3および本会議の取りまとめ（案）について資料4に基づき、それぞれ説明が行われた。

(4) 意見交換

＜「地域・地方」をケーススタディとするプロジェクト（案）＞

【安宅構成員】

- ・大目的のようなものを設けてはどうか。
- ・位置データについては①フレッシュネス、②メッシュの細かさが無いとデータとしての価値は無い。
- ・インクルージョン・テクノロジーが目指すものが、多様な対象、多様な人々に対する「愛」であることをしっかり示すべきではないか。

【スィンハ構成員】

- ・データを提供したい企業が個人情報保護法等の規制で他企業との連携ができずにいる。
- ・人種差別等の解決に活用できるのではないか。

【新居構成員】

- ・インクルージョンの対象として外国人も明記すべき。
- ・総務省として、公共データの活用促進等、データに関する取組にコミットする姿勢が必要ではないか。

【北野座長】

- ・オープンデータポリシーを設けて、いろんなプレーヤーがトライアルで使え

るデータにすべき。

【増島構成員】

- ・提言内容が枝葉になっている。サービスレイヤーが持っている位置情報を出してもらおう旗として、インクルージョンを活用すべき。
- ・EU では、BtoG データシェアリングが制度化されている。これは知的財産兼が法律で規定されていることに依拠している。こうした法律的なバックグラウンドに基づくルール規範の提言も行ってはどうか。グローバルな議論のトラックに乗ることもできる。

【秋山構成員】

- ・GAFA 等にデータを吐き出させることでデータのポテンシャルが引き出せるのではないか。
- ・省庁間連携に対するコミットメントが必要ではないか。

【ビール構成員】

- ・プロジェクトを実施するだけでなく、その意義を国民に賛同していただくためのコミュニケーションが重要である。

【末松構成員】

- ・どのようなデータがあるのか、どうアクセスできるのかを、より明確に知りたい。子どもたちが自由にデータに触れることができれば、その中からデータサイエンティストも生まれるだろう。

<取りまとめ（案）>

【梅屋構成員（文面）】

- ・関係省庁や各地方公共団体とも密接に連携しながら、推進していくべき。
- ・幾つかの地方公共団体又は地域の協力を得ながら、できる限り早期にプロジェクトを開始することを検討すべき。

【安宅構成員】

- ・日本でビジネスを行う企業にはデータをオープンにする制度をもうければ、産業が創出されやすくなる。
- ・位置データは非常に価値が高く、情報鮮度とメッシュ粒度が重要である。「このビルにいる」ではなく、「この部屋にいる」ことを示すことを担保すべき。また、位置データは入口なので、そこに閉じないようにする。
- ・女性と貧困層の課題は多いと考えているので、ターゲットを明確に記載したい。
- ・モバイルを前提とし、API を提供すること、誰にでも優しく使いやすくすべき。
- ・情報のメタ化技術が必要である。

- ・大量データ可視化技術はもっと発展する。インクルージョン・テクノロジーに位置付けるべき。

【新居構成員】

- ・「包摂的なサポートを通信的な基盤構築で実現する」といったような、総務省としてできるコミットメントをしっかりと書き込むべき。

(5)その他

北野座長より、本日の議論を踏まえ、最終的な取りまとめについては座長一任とする旨の発言があった。

以 上